

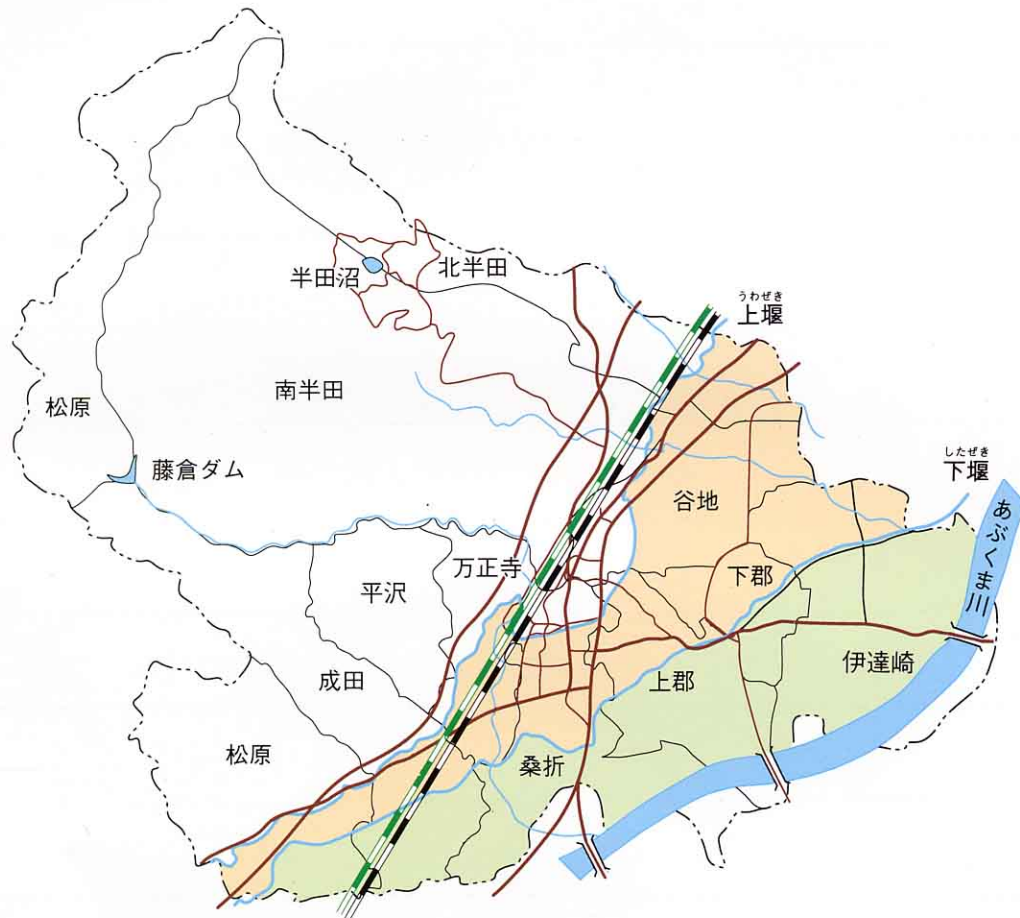
② 用水を利用している水田

上堰、下堰ができて、米作りが安心してできるようになり、また、新しい水田が次々に開かんされました。

その後、これらの堰は、大雨がふるたびに土堤がくずれたり、といがこわれたりしましたが、そのつど改修がくりかえされてきました。

今では、水田のほかに畑にもその水が利用されています。上堰と下堰合わせて、かんがい面積は水田が130ha、畑が220haとなっています。

西根堰かんがい図



きょう土を開いた人々

③ 藤倉ダム

世の中がすすんできて、しだいに開かんがすすんでくると水田の面積もふえ、堰の水だけではまかないきれなくなってきました。そこで1963年（昭和38年）半田山の西を流れる産ヶ沢川の上流をせきとめ「藤倉ダム」をつくりました。そのため、この地方のかんがい用水の不足がなくなり、水道水にも使われています。

